

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長  
( 公 印 省 略 )

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記  
令和 6 年度病害虫発生予報第 3 号 (6 月)

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室  
電 話 0561-41-9513  
ファックス 0561-63-7820

## 令和 6 年度病害虫発生予報第 3 号 (6 月)

令和 6 年 6 月 3 日  
愛 知 県

### 普通作物

#### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	5 月下旬の発生量は平年並 6 月の降水量はほぼ平年並	± ±
	紋枯病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 6 月の降水量はほぼ平年並	± ±
	縞葉枯病	やや多い	県全域	前年の発生量は平年並 5 月下旬のヒメトビウンカの 発生量が多い	± +
	ニカメイガ	やや多い	県全域	予察灯における誘殺数はやや多 い	+
	ヒメトビウン カ	やや多い	県全域	5 月下旬の発生量が多い 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	ツマグロヨコ バイ	平年並	県全域	5 月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

#### ・防除対策

##### [イネ・ニカメイガ]

各地域に設置した予察灯において越冬世代成虫の誘殺が確認されています。今後、発生が多くなる恐れがありますので、予察灯の誘殺数データ (あいち病害虫情報 調査データ) を参考にしてください。誘殺数が多くなった場合、特に近年被害が目立つ地域で

育苗箱施薬等による防除を実施していないほ場では、パダンSG水溶剤などで防除しましょう。

〔イネ・縞葉枯病（ヒメトビウンカ）〕

イネ縞葉枯ウイルスはヒメトビウンカにより媒介されます。本病に抵抗性を持たないイネ品種では、本虫の発生状況に注意し、必要に応じてダントツ粒剤などで防除しましょう。

・留意事項

ムギ類赤かび病について、5月下旬に行った巡回調査（県内16ほ場調査）の結果、発病穂率が10.94%（平年1.97%、前年5.11%）と、過去10年間と比較して最も高い状況でした。本病原菌は腐生性が高く、ムギわらなどの作物残渣上に広く生存します。そのため、収穫後はほ場内の作物残渣の持ち出しや、耕起をしてすき込むなどして翌年の伝染源の除去に努めましょう。

イネの斑点米カメムシ類の一種であるイネカメムシの発生が近年拡大しています。今年も本虫が広く発生することが予想されますので、本日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号（イネカメムシ対策）」を参考に対策の準備をしましょう。

イネいもち病は気温が20～25℃で曇雨天が続くと発生が多くなります。名古屋地方気象台5月30日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気候は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。ほ場をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

イネ紋枯病は、梅雨期の温度が高いと発生が増加します。特に、梅雨初期頃に高温で推移すると、発生が早まりその後の発生量も多くなるため、前年の発生量が多かったほ場は、発生状況に注意しましょう。

トビイロウンカについて、今年はまだ本県における予察灯への誘殺及び本田調査での発生も確認されていませんが、今後発表するトビイロウンカに関する情報に留意してください。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生が確認された水田では、苗の食害対策として、移植後3週間程度（食害を受けにくい5葉程度）までは浅水管理を行いましょう。また、貝の発生が多い場合は薬剤防除を行いましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量が多い 6月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の胞子形成量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない	－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	チャノキイロ アザミウマ	平年並	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並	±
				粘着トラップにおける誘殺数は平年並	±
ナシ	黒星病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	5月下旬の発生量はやや少ない	—
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒星病	平年並	県全域	4月の発病枝率は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	灰星病	やや多い	県全域	4月の発病花率はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒とう病	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	チャノキイロ アザミウマ	平年並	県全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	角斑落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	円星落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬成虫密度は平年並 フェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は多い	± +

## ・防除対策

### 〔ウンシュウミカン・そうか病〕

ストロビードライフロアブルなどで防除し、発病果実は伝染源となるので摘除して適切に処分しましょう。

### 〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

トモノールSなどで防除しましょう。なお、そうか病防除などで開花期以降にデランフロアブルを使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日以上空けるようにしましょう。

### 〔モモ・灰星病〕

発病果実は伝染源となるので摘除して土中深く埋めるか、ほ場外に持ち出して処分しましょう。

### 〔ブドウ・黒とう病〕

カナメフロアブル、スクレアフロアブルなどで防除し、発病果実、発病新梢、発病葉はほ場外に持ち出して処分しましょう。

### 〔果樹共通・カメムシ類〕

5月9日発表の「病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

## ・留意事項

ブドウべと病の5月下旬における発生量は平年並ですが、発生が目立つほ場が確認されています。降雨が続くと急激に発病が広がる可能性があります。ほ場を確認し、発生状況に注意しましょう。

ナシ黒星病の5月下旬における発生量は平年並ですが、発生が目立つほ場が確認されています。降雨が続くと発病が広がる可能性があります。ほ場を確認し、発生状況に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマの防除適期は、成虫発生ピークの時期です。本虫の第2世代成虫（中山間部に位置する稲武は第1世代成虫）の発生ピークは、6月4日から6月13日です。下表を参考に適期防除に努めましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第2世代	6/11	6/13	6/6	6/8	6/10	6/11	6/9	6/9	6/11	6/10	第1世代 6/4
(前年)	6/11	6/11	6/5	6/7	6/10	6/11	6/9	6/9	6/13	6/9	(前年) 6/7
前年差	±0	2日遅	1日遅	1日遅	±0	±0	±0	±0	2日早	1日遅	前年差 3日早
第3世代	7/3	7/6	6/29	6/30	7/3	7/3	7/2	7/2	7/4	7/3	第2世代 7/4

各地のアメダス平均気温から予測。6月2日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

前年の第2世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

## 野菜

### ・留意事項

ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類が発生している施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

キャベツ等の収穫残さはコナガの発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

トマトキバガのフェロモントラップにおける誘殺が県内でも複数地点で確認されています。また、近隣県では3月以降トマトの葉や果実への被害も確認されています。県内での農作物への被害は今のところ確認されていませんが、今後の被害が心配されます。5月8日発表の「トマトキバガ情報第1号」及び令和5年10月23日発表の「令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号」を参考に、ほ場での発生が疑われる場合は病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。

サツマイモ基腐病が全国的に発生しています。感染防止のため早期発見に努め、葉の

しおれや黄化、株元の変色などが見つかった場合は発生株を適切に処分しましょう。サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、農研機構「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」をご覧ください。「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」（令和4年度版）[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html)

## 花き

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
		平年並	山間部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±

### ・留意事項

白さび病の被害葉は伝染源となるので、できるだけ摘除しましょう。

オオタバコガのフェロモントラップでの誘殺数は、現在ピークは過ぎたものの例年に比べ多い状況が続いています。茎、花蕾に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫には薬剤の効果が著しく低下するため、若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底しましょう。防除対策等は5月17日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

アザミウマ類、ハダニ類などの害虫は、気温が高く雨が少ないと増加しやすくなります。ほ場をよく観察し、発生を確認したら早めに防除しましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

### 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台5月30日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年より低い確率60%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年より高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：30% 平年並：40% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%